

化学薬品による事故時の対処法

化学薬品による事故発生時の主な対処法を以下に示すので、事故が発生した時は被害を最小限に抑えるよう努めること。

なお、使用する薬品によって対処法が異なるため、使用薬品毎に事故が発生した時の対処法を事前に確認し、その対処に必要なものを用意しておくこと。

1) 皮膚に対する処置

速やかに大量の清潔な冷水で15分以上洗浄する。汚染された衣類や靴は速やかに脱がせる。

皮膚の潰瘍の処置は皮膚科の医師による。

2) 眼に対する処置

素早く大量の水で洗う。特にアルカリは眼球を腐食するので、よく水洗いしてすぐに医者にかかる。洗眼には、噴出式の洗眼装置が良いが、無い場合は清潔な水をオーバーフローさせた洗面器に顔を反復して入れ、はじめは目を閉じたまま、のち眼を水中で開閉して洗眼する。蛇口につないだゴム管からのゆるやかな流水を用いてもよい。しかし、噴水が強いと顔に付いている酸などが眼に入ったり、腐食した皮膚をはぎとることになるので注意が必要である。

中和剤は使用しない。洗眼が終わったら厚目のガーゼ湿布をあて、眼帯などで固定し、なるべく早く眼科医の処置をうける。

3) 呼吸器に対する処置

患者を迅速に新鮮な空気中に移す。汚染衣服は取り除き、皮膚は洗浄し、保温安静にする。重症の場合は、酸素吸入や人工呼吸が必要である。なるべく早く医師の処置を受ける。

有毒ガスを吸引したときは、直ちに新鮮気中に移し、衣類をゆるめ、安静にさせる。必要があれば、人工呼吸などを行う。フォスゲン、亜硝酸ガス、ハロゲンの中毒に対しては、ガス吸入後に強い苦痛を訴えなくとも、必ず安静にさせ、すぐ医師に相談する。

4) 誤飲に対する処置

大量の水を飲ませ、嘔吐させる。胃、食道の損傷は数分で死を招くので、処置は寸秒を争う。与える水は飲んだ薬品の約100倍量必要である。

保温安静にし、ショックや呼吸麻痺に注意するとともに、医師の処置を受ける。

5) 薬品をこぼしたときの処置

誤って化学薬品類を机や床にこぼすことがある。このような時のために酸を中和する炭酸水素ナトリウムや、アルカリを中和する薄い酢酸(10%)、過マンガン酸など酸化剤を還元するチオ硫酸ナトリウムは用意しておく方がよい。薬品がこぼれたときは、すぐに拭き取る。高濃度の酸や塩基をこぼしたときは、まず炭酸水素ナトリウムや酢酸を用いて中和し、大量の水で洗う。(床が防水構造になっていない場合は配

慮が必要です。)

毒物又は劇物をこぼしたときは、保護手袋をして拭き取り、拭き取った雑巾を水槽の中で3回以上洗い、洗浄水はそれぞれの廃液タンクに入れる。